

# 令和 5 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立業平小学校
校長名	伊藤 康次

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<p>● 概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>各学年、どの教科の結果も全国値の正答率と比較するとおおむね満足できる。また、大きく下回る項目がなく、安定している。しかも、大半の観点で全国よりも本校の正答率が大きく上回っている。</li><li>6年の理科は昨年に引き続き、大きく改善が見られた。</li></ul>	<p>● 概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>全国正答率を大きく下回る観点がなくなった。第4学年の社会(49.7%)と理科(49.7%)が正答率を若干だが下回っている。</li><li>英語を含めた5教科の中では、社会と理科の正答率が低い傾向にある。(3~6年)</li><li>4年と5年の理科は平均にとどまった。第5学年の「主体的に取り組む態度」と解答形式の「記述」が低い。</li><li>二極化が見られる。 基本的な知識・技能が低い児童は、諦めてしまっている傾向がある。最後までテストに取り組むことができない。</li></ul>
<p>● 同一集団の成長 (教科別)</p> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第3学年と5学年は学年を追うごとに成長を示している。</li><li>第6学年は概ね学年を追うごとに成長を示している。</li></ul> <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第5学年は成長傾向が見られる</li></ul> <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第3学年と4学年は学年を追うごとに成長している。</li></ul> <p>【理科】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第6学年は4年生の時平均値を下回っていたが、5年生、6年生では成長を示した。</li></ul> <p>【英語】・平均値を上回っている。</p>	<p>● 同一集団の成長 (教科別)</p> <p>【国語】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第4学年は学年を追うごとに低下傾向を示している。</li></ul> <p>【社会】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第6学年は低下傾向が見られる</li></ul> <p>【算数】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>第5学年は、学年を追うごとに低下傾向が見られる。(3年生の時が低い)</li><li>第6学年は学年を追うごとに大きな変動が見られる。(2年生と4年生の時が低い)</li></ul> <p>● 第5学年は平均値を上回っているものの、6年生時点は若干低下した。</p>

<p>● 観点別傾向</p> <p><b>【国語】</b>  <u>〔知識・理解 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕</u>          ・全学年、全観点平均を上回っている。</p> <p><b>【社会】</b>  <u>〔知識・理解 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕</u>          ・全学年、全観点平均を上回っている。</p> <p><b>【算数】</b>  <u>〔知識・理解 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕</u>          ・全学年、全観点平均を上回っている。</p> <p><b>【理科】</b>  <u>〔知識・理解 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕</u>          ・概ねどの学年も平均を上回っている。</p> <p><b>【英語】</b>  <u>〔知識・理解 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕</u>          ・全観点、目標値を上回っている。</p>	<p>● 観点別傾向</p> <p><b>【国語】</b>          ・第3学年の〔知識・理解〕が平均値と同程度である。          ・第4学年の〔知識・理解 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕が平均値と同程度である。</p> <p><b>【社会】</b>          ・第4学年の〔知識・理解 思考・判断・表現〕が平均値と同程度である。          ・第6学年の〔思考・判断・表現〕が平均値と同程度である。</p> <p><b>【理科】</b>          ・第5学年、「主体的に学習に取り組む姿勢」の観点が目標値より低い。（目標値 52.5 に対し 46.5）</p> <p><b>【英語】</b>          ・第6学年の<u>〔思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む姿勢〕</u>が平均値と同程度である。</p>
--	--

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<p><b>第2学年</b>            ・どの項目も概ね平均値を示すが、いずれも若干全国値を下回っている。(49.7～50.0程度)</p> <p><b>第3学年</b>            ・自己認識と社会性は概ね良好である。</p> <p><b>第4学年</b>            ・自己認識「成功体験と自信」(52.2)が高い</p> <p><b>第5学年</b>            ・全項目良好である。(52～55程度)</p>	<p><b>第2学年</b>            ・社会性「発信力」(47.4)が低い。</p> <p><b>第3学年</b>            ・学級環境「いじめのサイン」(47.5)が低い。</p> <p><b>第4学年</b>            ・社会性「対話・話し合い」(45.4) 学級環境「学級の規範意識」(48.7)が低い。</p> <p><b>第5学年</b>            ・社会性「対話・話し合い」(49.2)が若干低い</p>

<b>第6学年</b> ・概ねどの項目も目標値と同程度である。	<b>第6学年</b> ・自己認識「先生のささえ」(47.4)の項目が低い。
------------------------------------	---

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・学級の規範意識は良くなってきていると感じている。また、成功体験を喜ぶ姿勢があるので、その点を上手に指導に生かしていきたい。	・家庭との連携について 家庭が安らぎの場になっていない子供が多いことに驚く。学校便りや保護者会を通じ、家庭での指導のあり方を再確認したい。

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 各教科の関心・意欲・態度と学習環境の向上

- ・机上だけの学習ではなく、実際に体験を通したり、その道のプロの話の話を聞いたりすることで学習に関する好奇心を向上させる。また、体験がただの体験にすることなく、体験する必然性を児童に与える事前学習をしっかりとすることや体験が自分自身の知識や考え方構築につながるような事後学習をきちんと行う。
- ・スモールステップで目標を設定する。少しでも自分自身ができるようになったと思えるような肯定的な評価を続け、主体的に学習に取り組む意識を高めていく。
- ・他者受容感・自己評価・自己受容感を高めるために児童の小さな変化に気付き、声をかける。児童の気持ちに寄り添うと共に、つまずきに応じた指導を行う。
- ・ICT機器、タブレット端末を積極的に活用し、個々に応じた

(2) 付けたい資質・能力（コンピテンシー）を意識した授業を行う。

【キーワード】

① 汎用的スキル

問題解決力、批判的思考力、協働するする力、伝える力、先を見通す力、感性・表現・創造の力、メタ認知力

② 知識

主体的学び、対話的学び、深い学び

③ 態度／価値

愛する心、他者に対する受容、共感・敬意、協力し合う心、よりよい社会への意識、好奇心・探究心、正しくあろうとする心、困難を乗り越える力、向上心

### 【重点1】

子供の実態や教師・家庭・地域の期待などをはまえて、学校ごとに身に付けさせたいコンピテンシーを、より具体的なレベルで設定する。⇒今年度の校内研究におけるキーワードは、「対話」

○必然性・必要性のある「対話」、○自然発生的な「対話」

### 【重点2】

それを、各教科・領域さらには各単元の学習状況と組み合わせ、新たな行動目標を作成する。その達成に向けて経験を積み重ねていくこと、より多くの場面を経験することで、コンピテンシーを育てる。

## (3) 個別最適な学びを念頭に、指導を行う。

「個別最適な学び」＝「指導の個別化」「学習の個別化」

⇒教員の視点から……「個に応じた指導」

指導の個別化＝一定の目標を児童が達成することを目指し、個々の児童に応じて異なる方法等で学習を進めること。

学習の個別化＝個々の児童の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め、広げること。

### 【重点1】

- ・教員が支援の必要な児童に、より重点的な指導を行う。
- ・児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行う。児童一人一人に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供することで、児童自身の学習が最適となるよう調整させる場を設ける。

### 【重点2】

- ・タブレット端末を有効的に活用する。「ミライシード」「ロイロノート」で児童の能力に応じた課題を提供する。
- ・ふりかえりシートを活用し、児童の能力に応じた内容の課題を提供する。また、東京ベーシックドリルを活用し、定期的に学力定着度を図る。

## 3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

### (1) 目標

- ・全ての学年、項目で全国平均を上回る。(重点教科 令和6年度 第5学年の社会、理科)
- ・全ての学年、項目で墨田区平均を上回る。(重点教科 令和6年度 第5学年の社会、理科)